

解 (15) ○山崎誠, 左右田徳郎, 安藤鋭郎. 結晶トリプシンをクルペインに作用させ, その加水分解物について, 遊離アミノ酸の有無, ペプチド類のアミノ基末端アミノ酸の種類を調べた.

2-46. カルボキシーペプチダーゼの精製 (12) ○飛田享, 山崎誠, 安藤鋭郎. 牛の膵臓から抽出したカルボキシーペプチダーゼの精製を盡し, その純度と活性を調べた.

2-47. 検圧式 Van Slyke 法の応用 (15) ○木村正己, 岩井浩一, 石井信一, 安藤鋭郎. 検圧式 Van Slyke 装置によりクルペインの末端アミノ及グアニジン窒素を定量し, その分子量を算定し, 分子中のアルギニンの状態も調べた.

2-48. プロタミン分子中のアルギニンについて (15) 橋本千恵子. プロタミン中のアルギニン含量及びその分子内の遊離グアニジン基につい

て, 坂口反応を用いた場合の結果を検討した.

2-49. 塩基性アミノ酸並にクルペインのイオン交換クロマトグラフィー (15) 石井信一. Amberlite XE-64 を使ったクロマトグラフィーによる塩基性各種アミノ酸の定量と, 同様な方法によるクルペインの均一性の検討を行った.

2-50. 含塩アミノ酸のイオン交換樹脂による脱塩 (15) ○黒崎昌子, 石井信一, 安藤鋭郎. Amberlite IRA-400 による標題の脱塩操作をフラクションコレクターを使つて検討した所極めて能率よく行われることがわかつた.

2-51. リポプロテイドの研究 (15) ○草間慶一, 左右田徳郎. 卵黄の Lipovitelline 及び Lipovitellinine を調製, 精製し, 組成をしらべ, 且つプロテアーゼを作用させた結果を検討している.